

6 農総試第 45 - 8 号
令和 6 年 1 1 月 1 日

関 係 各 位

愛知県農業総合試験場長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。
記

令和 6 年度病虫害発生予報第 8 号 (11 月)
令和 6 年度病虫害発生予察注意報第 11 号

担 当 環境基盤研究部病虫害防除室
電 話 0561-41-9513
ファックス 0561-63-7820

令和 6 年度病虫害発生予報第 8 号 (11 月)

令和 6 年 1 1 月 1 日
愛 知 県

果樹

・ 予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュ ウミカン	ミカンハダニ	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±

・ 留意事項

カンキツ、カキのほ場で果樹カメムシ類の被害が多発しています。気温が高くまだほ場で活動しているカメムシがいるため、引き続き発生に注意してください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	軟腐病	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量は多い	± +
	べと病	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量は多い	± +
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量は少ない 11月の気温は高い	- +
キャベツ	黒腐病	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量は多い	± +
	菌核病	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量は多い	± +
ハクサイ キャベツ	コナガ	平年並	県全域	10月下旬の発生量はハクサイほ 場で平年並、キャベツほ場でや や少ない フェロモントラップにおける誘殺数 はやや少ない 11月の気温は高い	-～± - +
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	多い	県全域	10月下旬の発生量は多い 10月下旬のコナジラミ類の発生量 はやや多い 11月のコナジラミ類の予想発生量 はやや多い	+ + +
	コナジラミ類	やや多い	県全域	10月下旬の発生量はやや多い 11月の気温は高い	+ +
ナス (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない	-
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の気温は高い	± +
キュウリ (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない	-
	べと病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	ミナミキイロ アザミウマ	多い	県全域	10月下旬の発生量は多い 11月の気温は高い	+ +
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない 11月の気温は高い	- +

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	キャベツほ場における10月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	＋ ＋
	オオタバコガ	多い	県全域	キャベツほ場における10月下旬の発生量が多い フェロモントラップにおける誘殺数が多い	＋ ＋

・防除対策

〔ハクサイ・軟腐病〕

収穫前日数に注意して、バリダシン液剤5、ジーファイン水和剤やコサイド3000などで防除しましょう。結球期以降は、薬害を生じるおそれがあるため無機銅剤の使用は避けましょう。

〔ハクサイ・べと病〕

収穫前日数に注意してランマンフロアブルやプロポーズ顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔キャベツ・黒腐病〕

本日発表の「キャベツ黒腐病情報第1号」を参照してください。

〔キャベツ・菌核病〕

収穫前日数に注意して、アフエットフロアブルやセイビアーフロアブル20などで防除しましょう。

〔トマト（施設）・黄化葉巻病、コナジラミ類〕

本日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第11号」を参照してください。

〔ナス、キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

本日発表の「ミナミキイロアザミウマ情報第1号」を参照してください。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

10月4日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第10号」を参考にしてください。

〔野菜共通・オオタバコガ〕

10月4日発表の「オオタバコガ情報第6号」を参考にしてください。

・留意事項

トマトキバガによるトマトへの被害が県内で確認されています。侵入調査用フェロモントラップでは、秋になり各地で誘殺が増加傾向です。施設内での発生に注意しましょう。防除対策等は、9月9日発表の「令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号」を参照してください。

虫媒伝染性ウイルス病のトマト黄化葉巻病（TYLCV）やトマト黄化病（ToCV）、キュウリ黄化えそ病（MYSV）、キュウリ退緑黄化病（CCYV）が発生しているほ場では、発病株を抜き取り適切に処分するとともに、媒介虫（トマト黄化葉巻病及びキュウリ退緑黄化病はタバココナジラミ、トマト黄化病はコナジラミ類、キュウリ黄化えそ病はミナミキイロアザミウマ）の防除を徹底しましょう。

作物

・留意事項

10月下旬のダイズほ場での巡回調査における吸実性カメムシ類の発生量は平年並です。しかし、弥富市及び豊川市において、発生が多いほ場が確認されました。子実肥大中期以降の被害は奇形粒、変色粒を引き起こすため、収量、品質の低下につながります。また、成虫はほ場外に好適な食草があれば、子実肥大中期以降にほ場外へ移動することもあります。幼虫は移動せず、黄熟期まで加害を続けます。吸実性カメムシ類の発生が多いほ場では、収穫前日数に注意し、防除しましょう。9月2日発表の「吸実性カメムシ類情報第1号（ダイズ）」も参考にしてください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台 10月31日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率70%です。

3～4週目は、高い確率ともに60%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 10% 平年並 : 10% 高い : 80%

〔降水量〕 少ない : 10% 平年並 : 30% 多い : 60%

〔日照時間〕 少ない : 40% 平年並 : 30% 多い : 30%